

津南地区交通安全たより



発行：
津南地区交通安全協会
TEL059-256-2010
令和6年2月

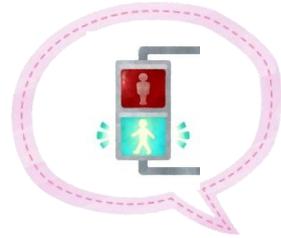
～小さな子どもを交通事故から守るために～

子どもは、大人に比べて「見る」「聴く」「判断する」能力がまだまだ未熟なため、子どもならではの危険な特性がみられます。

子どもを交通事故にあわせないために、子どもの特性を理解し、子どもの目線に立った指導で見守り、サポートしていきましょう。

子どもの行動特性

- ・ ひとつのものに注意が向くと、周りが目に入らなくなります。
- ・ ものごとを単純にしか理解できません。
- ・ 抽象的な言葉だけでは、理解できません。
- ・ 大人に比べ視野、視点が狭く低い。 など…



保護者の方へ

子どもの理解力に合わせた指導を

子どもは、「あぶない」「注意なさい」というあいまいな言葉ではよく理解ができません。子どもと一緒に通学路や自宅付近などよく通る道を歩き、子どもの目線で危険箇所を確認しながら実際の場面で立ち止まる位置や安全確認の方法等を教えてあげてください。

そして、「なぜ飛び出してはいけないのか」や「どこを確認するのか」など具体的に話してあげてください。

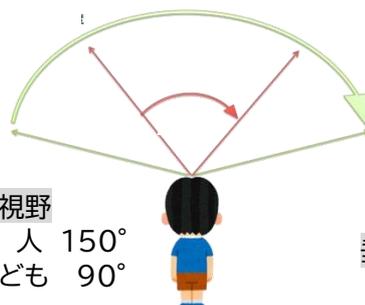
大人は子どものお手本です！

子どもは、大人のすることをよく見えています。日頃から安全な行動でお手本を見せましょう。

子どもの視野

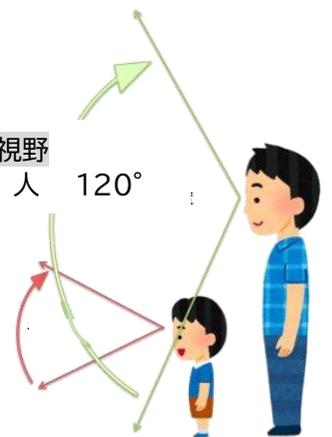
子どもの視野は大人の3分の2程度しかありません。また、大人に比べ身長が低いため、大人に見えるものが子どもには全く見えていないこともあります。

水平視野
大人 150°
子ども 90°



垂直視野
大人 120°

垂直視野 子ども 70°



目だけでなく、首もしっかり動かして、遠くまで見るよう指導をお願いします。



やさしさが 安全つなぐ 三重の道
～歩行者の ハンドサインは 赤信号～

